

## はじめに

校長 入江 克己

本校では平成10年度から研究主題として「生活を楽しむ子をめざして～個別の指導計画をもとにした授業づくり～」をかかげ、この度4年間にわたって授業づくりのみならず、教育課程全般にわたる実践研究に取り組んできましたが、この度その一端を「生活を楽しむ授業づくりー QOL の理念で取り組む養護学校ー」（明治図書）として出版することができました。

本校では教育理念として社会的自立というキーワードを超える「人格的自立」ということばにこだわってきましたが、その背景にはわれわれは、児童生徒たちが自らの環境に適応していくことのみをめざして日々の実践に身や心を砕いているのではなく、「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動していく」生きた身体知を身につけてほしいという願いが含蓄されています。

そのためにも学校を教授学校としてではなく、学習をつつみ込んだ生活学校としてとらえ、さまざまな行事を含め、これまでの学校を見つめ直し、一人ひとりの個別の指導計画のもとに子どもたちが楽しく学習活動を展開し、将来を切り拓く礎とするために、子どもを主体にした「生き生きとした」学校づくりへと改造を推し進める必要があります。

学校の生活のみならず、家庭・地域・社会にも眼を向け、子どもたちの生活の現状をトータルに分析し、個々の発達に応じ地域や社会と関わる多面的な校外学習プログラム（行事・教材・学習内容など）を適切に組織することによって行動や経験の量や幅ならびに質を高め、生活を豊かにする力を徐々に拡大していったほしいという期待があります。生活の質を高めるために学校生活においてさまざまな日常の活動を選択し、積極的に参加し、自己決定、意思表示のできる「人格的な自立」をめざすことによってQOLを高めようとする「生きる力」が培われるものと思います。

子どもたちがさまざまな学習を仲立ちに教師集団の支援のみならず、学級や学部の集団、さらには地域の生活集団と深く関わり合いながら、依存・共生、そして自立の関係をスパイラルに織りなすことによって緩やかに人格的な発達を遂げ、自らの生活環境を拡大させ、享受していくことが、QOLを高めるという教育課題や社会理念としてのノーマライゼーションの実現に迫る筋道ではないかと考えています。

これらの実践は、児童生徒たちの変革のみが求められるのではなく、同時に教師も旧来の膠着した教師像からの脱却が要求される「共育」の過程にほかなりません。

この機会に忌憚のないご意見をいただければ幸いです。最後になりましたが、本校の研究に対して鳥取県ならびに鳥取市教育委員会、鳥取大学教育地域科学部障害児教育学教室のスタッフ、さらには公立学校の諸先生方など関係者各位の方から貴重な支援や示唆を与えていただくことができました。ここに厚くお礼を申し上げます。